

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801867		
法人名	有限会社 あざみ		
事業所名	グループホーム あざみ苑		
所在地	〒813-0036 福岡県福岡市東区若宮4丁目2番48号		TEL 092-663-8119
自己評価作成日	平成29年02月03日	評価結果確定日	平成29年03月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設10年を過ぎたが、家庭的な温かい雰囲気は変わる事無く、職員と利用者が家族のように毎日にぎやかに生活している。地域の方々もとても協力的で保育園や小学校、中学校、子供会との交流も毎年の恒例行事として定着しており、子供たちが来るのを利用者も職員も心待ちにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成29年02月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あざみ苑」は、幹線道路沿いの商業地域のバス停前に位置し、利便性の良い環境の中にあるグループホームである。保育園や地域の子ども会、小学校との交流は定着し、利用者の笑顔と喜びに繋がっている。子ども110番を設置し、地域の子どもの安全にも貢献している。往診体制の整った協力医療機関、ホーム看護師、介護職員との連携により、24時間安心の医療体制を整え、今年度、初めての看取りの支援も行っている。介護に対する思いの熱い苑長と、チームワークのとれた職員が一つになって、利用者と家族のような関係を築き、愛情のこもった食事の提供と、声掛けとスキンシップを絶やさず介護サービスの実践により、利用者の入居年数は長い方が多い。職員一人ひとりが、「あざみ苑」を大切に思い、「自分の親をここで看たい、そう思える介護」を目指し、日々努力しているグループホーム「あざみ苑」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から理念に添ったサービスが提供できるよう努めている	開設時に職員が話し合っって作成した理念を見やすい場所に掲示し、ミーティング等の機会に折に触れ、理念を確認している。職員は、利用者一人ひとりがその人らしく生きる自由を尊重しながら、ゆったりと楽しく笑顔で共に暮らせるホームを目指し、日々取り組んでいる。また、「自分の親をここで看たいと思える介護」を目標に、常に心に留めて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一部の利用者はなじみの床屋に今でも通っている。散髪中、理解ある他のお客様や床屋のご主人との世間話を楽しんでいる。	自治会に加入し、利用者職員は町内会の一員として、地域の夏祭りや運動会に参加し、小学校の体験学習を受け入れ、子ども110番の事業所として登録している。子ども会と一緒に行うクリスマス会は、利用者の楽しみのひと時である。また、地域住民との交流を通して、認知症やグループホームの啓発活動にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域の小学校に出向き3年生を対象に授業のひとコマを使って認知症についての授業をする機会を頂いている。その後6日間にわたり施設で交流会を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は職員不足等で運営推進会議を開催する余裕が無く行えていない。	今年度は、運営推進会議の開催が困難であったが、定期的にホームの状況や活動の報告を行う事や、意見交換によって得られた意見、要望、情報等をサービスの向上に活かしていく事が重要である事から、参加委員を募り、定期的な運営推進会議の開催を検討している。	2ヶ月毎に年6回実施することが義務付けられているので、2ヶ月に1回職員の勤務体制に工夫して会議を開催し、ホームの運営や取り組みを報告し、地域の理解と支援を得る取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室が出た時等は包括支援センターにお声掛けするようにしている	管理者は、行政や包括支援センターの窓口に、困難事例や疑問点の相談や、事故等の報告を行い、助言や情報の提供を受け、連携を図っている。また、行政主催の研修会や行事に参加できるように検討している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束についてきちんと理解できている。また夜間以外は玄関の施錠はしておらず、誰でも出入りできる環境にある。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、職員間で話し合い、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束が、利用者に及ぼす弊害について理解し、職員間でチェック体制を確立し、身体拘束をしない介護サービスに取り組んでいる。また、具体的な禁止行為について事例を挙げて話し合い、身体拘束の内容について再確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は常に日頃のケアについて気配り目配りをし、職員の心身の状態を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用している方がいるが、後見人、本人、職員間がとても良い関係性ができている。	現在、成年後見制度活用の利用者があるので、月に1度、後見人の面会があり、実務を通して制度についての理解を深めている。資料やパンフレットを用意し、利用者が制度を必要とする時には、家族や関係者と話し合い、申請手続きが出来るように取り組み、利用者の権利や財産が不利益を被らないように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にあたっては見学の時から細かくご説明し家族や本人が不安や疑問が残ったままの入居にならない様に心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情やご意見はいつでもお聞きできる体制にしている。	日常生活の中で、職員は利用者の思いや希望を聴き取りに努めている。家族には、面会や行事参加の時に、職員が話す機会を設け、利用者の健康状態や暮らし振り等を報告し、家族の意見や要望、心配事等を聴き取り、介護計画やホーム運営に反映させている。手描きの「あざみだより」を毎月送付し、家族に大変喜ばれている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のミーティングの際には代表者も参加し職員の提案や意見等を聴き、出来る事は素早く対応している。	職員全員参加の下、カンファレンスを兼ねた職員ミーティングを、ユニット毎に月1回開催している。職員から出された意見や要望、気付き等に迅速に取り組み、ホーム運営や業務改善に反映出来る取り組みを行っている。また、毎日の業務の中でも、気付きや気になる事を管理者に相談し、解決に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の身体状況や家庭の事情等を考慮し、勤務時間や出勤日数の変更等臨機応変に対応し、職員が働きやすい環境になるよう努めている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては本人のやる気や雰囲気等を重視して合否を決めている。また、働く職員に対しても個性を活かせるような役割分担を与えている。	職員の休憩室を確保し、休憩時間、希望休、勤務体制に配慮し、職員が働きやすい職場環境を目指している。職員の採用は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄を優先している。採用後は研修や現場での教育を受けて、介護の知識と技術の向上を目指している。また、苑長は、職員一人ひとりと個別の面談を実施し、個人的な悩みや心配事の相談も受けている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対しては分け隔てなく対応するように指導している。	外部の人権研修会に職員が交代で参加し、利用者の人権を守る介護のあり方を理解し、言葉遣いや対応に注意し、利用者が安心して生活できるよう支援に取り組んでいる。また、職員は常に理念を意識し、利用者がある人らしく主体的に生きることの支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は職員不足が長く続き研修を受ける機会がほとんどなかったが、職員が希望した研修に関してはシフトをやりくりして参加できるよう努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入しているが今年度は勉強会や研修会、交流会にもあまり参加できてない		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご見学に来られた時点であるべく詳しく聞き取りを行うようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居してしばらくはこまめにご本人の状況をお伝えしたり、逆にこちらがわからない事等を尋ねるようにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要としている支援の内容を把握し、専門職に相談しながら方針を決めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事を奪うことが無いように心がけて支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	内科以外の専門医受診(皮膚科や眼科、整形外科等)はなるべくご家族にお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等はよほどのことがない限り制限していおらず、ご家族との外出も大歓迎で送り出している	職員は、利用者の馴染みの人や場所との関わりを把握し、行きつけの理容院への送迎を行う等、家族や地域の方の協力を得ながら、出来る範囲で馴染みの関係継続に取り組んでいる。また、家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎し、訪ねやすい雰囲気作りを心掛け、足を運んでもらえるよう配慮している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、自然と仲良しな人ができているようで、生活の中で一緒に行動する姿を多く見かける		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様との季節のお手紙のやり取りは開設以来続けているので、その後のご本人の様子がわかるので職員同士で昔話に花が咲いたりする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に担当者会議を開催し、他の職員の思いや意見等を取り入れながら利用者様本位の支援方法を考えている	担当職員は、日常生活の中で、利用者の思いや意向を聞き取って記録し、職員全員で共有し、介護サービスに活かしている。意向表出の困難な利用者については、家族と相談し、職員は諦めずに利用者に寄り添い、話しかけ、その表情や仕草から利用者の思いに近づき努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況はなるべく細かく聞き職員同士で情報共有出来るよう申し送り等で確認しあっている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックは欠かさず行い、数字だけにとらわれず顔色や精神状態等の変化に気を配っている。体調や気分が乗らない時は無理なく一日を過ごせるよう配慮している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が快適に過ごせることを最優先し、状態の変化によって介護計画も変更している。また、専門的な福祉用具にこだわらず日常にあるものを工夫して使ってもらっている。	利用者、家族の希望を基に、担当者会議で話し合い、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態に変化があれば、関係者間で話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何か変化があった時には個別の記録と申し送りノートの両方に記入するようにして情報共有に努めている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の為に何事にも柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃から地域の商店に利用者様と一緒に買い物に出かけたりして施設と利用者の顔を覚えてもらえるよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に提携のクリニックのご紹介はするが、無理強いせず本人と家族が納得のいく医療機関を受診できるよう支援している。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援を、職員が同行して行っている。隔週毎往診の協力医療機関と連携し、病院の看護師とホームの看護職員が協力し、利用者の健康状態を小まめにチェックし、早期発見、早期治療に繋げ、24時間安心して任せられる医療連携体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事あるごとに事業所内の看護師や提携のクリニックの看護師に相談し支持を仰いでおり迅速な対応ができています		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は暇を見つけて入院先の病院に顔を出すようにしている。また、洗濯物を業者任せにせず家族の代わりに取りに行ったりもする		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢の利用者は特に終末期に入る前に「その時」の家族の意向を聴くようにしている。また、終末期に入っても変化があるたびに必ずご家族との話し合いの場を設けて支援の方法を確認している。	契約時に利用者や家族と話し合い、ホームで出来る支援について説明し、理解を得ている。利用者の重度化に伴い、段階的に家族や主治医と話し合い、今後の方針を確認し、家族の希望を優先した終末期の支援体制を整えている。今年度、初めての看取り介護を経験している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを職員がいつでも確認できるように常備している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては年に3回の避難訓練を必ず実施しているがその他の災害に関してはまだ検討中である	地域の協力と消防署の指導(年1回)を得て、夜間想定 の避難訓練を年2～3回実施し、通報装置や消火器の 使い方、避難経路、非常口、避難場所の確認を行い、 利用者が安全に避難出来るように取り組んでいる。ま た、近隣に緊急時の支援を要請し、いざという時の協 力体制を整えている。	災害時に備えての非常食や非常用 備品の準備に取り組む事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者も職員も付き合いが長くなってくると対応が家族のようになってしまいがちだが、「親しき中にも礼儀あり」を常に意識するよう指導している	利用者のプライバシーを尊重する介護について、職員ミーティングや勉強会の中で話し合い、意識づけを行っている。職員は、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に配慮し、利用者のプライドや羞恥心を大切に した介護サービスに取り組んでいる。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務については、管理者が職員に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通ができる利用者には常にどうしたいかを尋ね、本人の意思を尊重するようにしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の気分によって予定を変更するなどして柔軟に対応している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできない方もいつも身ぎれいに見えるよう支援している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事がだんだん少なくなっていて食事の準備等はしていただいてないが、利用者に食べたいものを聞いてメニューを決めたりしている	利用者の嗜好を聞きながら、ユニット毎に献立を考え、職員が交代で手作りの美味しい食事を提供している。利用者と職員が同じテーブルに座り、会話しながら同じ食事を食べる家庭的な雰囲気のある食事の時間である。「美味しい、美味しい」と言いながら、利用者は美味しく完食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が少ない利用者に関しては目標を設定し記録を取りながらその量に近づけるよう努めている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさず支援している。ご自分でできない方も職員が丁寧にケアしている。また、口をゆすげない方はお茶を利用したりして工夫している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握し、その方に応じた方法で排泄ケアを行っている	トイレで排泄することや、オムツを使用しないで済む暮らしは、利用者の生きる力に繋がるので、職員は、利用者の排泄パターンを把握し、仕草や表情に合わせて、タイミング良く声掛け、誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、失禁時の声掛けには特に注意している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や食事内容にはいつも気を使い、便秘気味の方は朝の補水の時間に冷たい牛乳を飲んでいただいたりお風呂で腹部マッサージをして排便を促している		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでもらえるように入浴剤を使用し、リラックスできるよう努めている。	利用者の希望を聴きながら、最低2回は入浴出来るよう支援に努めている。ゆっくりと湯船に浸かり、香りの良い入浴剤を入れる等して入浴を楽しめるよう工夫している。入浴を拒む利用者には、時間を変更し、職員が交代してタイミング良く声掛けし、無理な場合は清拭や足浴に変更する等、利用者の自己決定を優先した入浴支援を行っている。また、入浴時は、利用者と職員が一对一でゆっくり話ができる貴重な時間と捉えて関わっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は安眠を重視した介助を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに服薬の方法を決めており、薬の内容が変更になった場合は申し送りを徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一部の利用者の趣味の囲碁や将棋を楽しめるよう職員の手が空いた時はお相手出来るよう心がけている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候がいいときは近場でもいいのであるべく外に出掛けられる様支援している。	温かい日には、近所の八百屋に車椅子で買い物に出かけたり、散歩を楽しんでいる。通院のついでにドライブしたり、家族と一緒に外出に出かける等、気分転換に繋げている。また、利用者の体調に配慮しながら、弁当を作って、花見やドライブに出かけ、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては利用者同士のトラブルを防ぐためにも個人のお小遣いは金庫で管理している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば電話や手紙は制限せず支援している		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースが快適な空間になるよう、特に排泄の匂いに関しては常に気を配っている。	1階と2階で、1ユニット毎に独立した造りである。ホーム内は、利用者の動線に配慮して整理整頓を行い、清掃に力を入れて取り組み、臭いや採光、音、温度・湿度にも注意しながら、利用者が快適に暮らせるように努めている。また、季節の生花を飾り、利用者の似顔絵や笑顔の写真を飾り、生活感、季節感を大切にしたい温かな雰囲気共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士リビングのソファでテレビを見ながら会話したり、食後はご自分の居室でラジオを聴いたりと思い思いに過ごしている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には新たに購入せずに使い慣れたものを持ち込んでいただくようご家族にお願いしている	利用者が、自宅で使っていた馴染みの家具や身の回りの物を、家族の協力で持ち込んでもらっている。家族の写真や仏壇等、その方にとって大切な物を置く事で安心してもらえるよう配慮している。また、こまめに換気や掃除を行う事で、利用者が気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレ、風呂場の表示も利用者の目線で分かりやすく配慮している		